

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| | |
|---------------|---|
| 学校名 | 佐賀市立嘉瀬小学校 |
| 1 前年度 評価結果の概要 | ・コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い、可能な限り地域連携の教育活動を行うことができた。また、KSVN20周年記念行事も実施することができた。保護者や地域の児童の主体性や地域への愛着を育てるための教育課程を、今後も充実していく。 ・国語の授業づくりにおいて、「主体的な学びを実現する、3フレーズで創る学習課題」を取り入れた授業研究に取り組み、学力の向上を図ることができた。また、校内研究として全職員で取り組んだことで、授業で身に付けさせたい力を明確にすることができ、授業改善が図られた。 |
| 2 学校教育目標 | ふるさと嘉瀬を愛する青藍の子の育成 |
| 3 本年度の重点目標 | ・県研究指定事業「SDGs教育」を視点とした校内研究に取り組むとともに、前年度に取り組んだ「主体的な学びを実現する、3フレーズで創る学習課題」をさらに追究し、学力の向上を図る。 ・地域学校協働活動推進事業を活用し、学校と地域の連携体制の改善と強化を図り、郷土愛を育む。 ・組織力や働き方改革を更に推進し、職員の心身の健康を守り、児童の学びを止めない。 |

| 4 重点取組内容・成果指標 | | | | 5 最終評価 | | | | 主な担当者 | |
|--|---|---|--|--|---|--|--|---|-------|
| (1)共通評価項目 | | | | | | | | | |
| 評価項目 | 重点取組 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | | |
| ●学力の向上 | ○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践 | ●学力向上対策評価シートに示した成果指標を達成した教師80%以上。 ○SDGsの研究で、2種のモデル(カレンダーモデル・ボードモデル)作成と3回の全体報告会を行う。 ○児童アンケートで、肯定的回答90%以上。 ○学習状況調査及びCARTで県平均以上。 ○保護者評価で、肯定的回答90%以上。 | ・教職員間で共通実践を共有し、日常的に取組内容を情報交換する。 ・SDGsの視点を含めたカレンダーモデルとボードモデルの完成に向け取り組みを進める。 ・家庭と連携した家庭学習の充実を促す。 ・学習状況調査結果を分析し、問題把握や課題解決に向けて情報を整理する力、読み取る力等を伸長する方策を実践する。 ・タブレットを使った個別最適な学習実践を行う。 | A | ・書く活動と話し合う活動を取り入れ、問題解決的な学習の授業をすることができたと回答をした職員は100%であった。 ・SDGsの視点を取り入れた学習を全学年で実施し、活動内容をボードにまとめることができた。また、各学年の実践を報告し合うことで、SDGsの視点を取り入れた授業実践を学び合うことができた。 ・アンケート調査で、学習について肯定的に回答した児童は、91%であった。めあてをもって学習し、進んで学び合い活動と書く活動に取り組むことができている。 ・アンケート調査で、学習指導について肯定的に回答した保護者は、94%であった。 | A | ・学力向上のためには家庭学習(復習等)は大切。家庭との連携は必要である。 ・SDGsの取り組みで社会的視野が広がっていくことを期待している。 ・同じテーマで学習を全学年が実践し、報告をして学びあうことができたこと、職員も児童も肯定的な回答が多かったことがよいと思う。 | ・学び部 ・研究主任 | |
| | ●心の教育 | ●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○友達に関するアンケートで肯定的な回答をした児童90%以上。 ○道徳科の授業に関するアンケートで肯定的な回答をした職員85%以上。 | ・友達の良いところを認める活動や人権教室を充実させ友達を思いやる豊かな心の教育を実践する。 ・SDGsの視点から、平和や命の大切さを考える講演会・ふれあい道徳を開催する。 | A | ・1月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した児童が92%である。 ・1月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した保護者が93%である。 ・人権リーダーを中心に「いじめ・いのちを考える日の放送」「人権講演会進行」等に取り組むことができた。 | A | ・児童・保護者の肯定的な評価が90%を超えたことは素晴らしいことである。 | ・こころ部 |
| | | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 | ○「いじめの対応に関するアンケートで肯定的な回答をした職員90%以上。 | ・いじめを早期発見、解決するため、毎月アンケートを実施し、全職員で情報共有し初期対応に努める。 ・保護者や専門機関と連携し、早期対応をめざす。 | B | ・毎月月初めの「心のアンケート」の項目を見直し、いじめの初期を見逃さないよう焦点を絞ったアンケートにした。 ・いじめやいじめにつながる事態が生じた際は、全職員で情報共有し、対策委員会を立ち上げて、保護者や専門機関と連携して対応した。 ・いじめの対応に関するアンケートで肯定的な回答をした職員は100%だった。 | B | ・嫌なことをされた時は自分の言葉で声が出せるような活動(取り組み)をお願いしたい。 ・年度途中でアンケート内容を検討し、改善に努めている点が良いと思う。 | |
| ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 | | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒75%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上 | ・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施をする。 ・各種体験活動では、地域の「人・もの・こと」を活用するとともに、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みの実践に取り組む。 | B | ・校内研究で取り組んでいるSDGsについて96%の児童が知っていることと答え、自分に何かできることがあると考えた児童が85%であった。 ・「ふるさと嘉瀬感謝祭」など、多くの場面で地域の方々やふれあい、体験活動を行うことができた。また能登半島地震の募金活動など子どもたちの自主的な活動も見られた。 | A | ・自分の言葉で表現できるようにしてほしい。 ・登校中にゴミを拾ったり、募金活動をしたりと児童の自主的な姿が見られてよかった。 | ・こころ部 ・教頭 | |
| ●健康・体づくり | ●「運動習慣の改善や定着化」 | ①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分(毎日60分以上を目安とする)以上の児童生徒70%以上。 | ・歩いて登下校することの良さを指導する。 ・昼休み等に体を動かすことができるよう、体育委員会や学級の係活動等での取り組みを行う。 ・たて割り活動で、運動を楽しむ場を設ける。 ・学級単位でスポーツチャレンジに参加をする。 | A | ・体育委員会がクラス対抗のドッジボール大会を企画したり、各クラスでスポーツチャレンジに取り組んだりした結果、毎日60分以上運動している児童は84%に上昇した。 | A | ・車での送迎が増えているように感じる。何らかの対策を行ってほしい。 ・ドッジボールやスポーツチャレンジに取り組めるように企画をして取り組むことはよいことと思う。生活の中で歩いて登校することや進んで体を動かすことも意識するとよいかもしれない。 | ・育ち部 | |
| | ●望ましい生活習慣の形成 | ○早寝・早起き・朝ごはんの家庭への啓発を強化し、達成できた児童90%以上。 | ・「保健便り、給食便り」等を通して早寝・早起き・朝ごはんの効果啓発する。 ・学校栄養職員や養護教諭が連携し、学級活動や教科指導などで食の大切さや健康についての意識向上を図る。 | A | ・週明けのエチケットチェックで意識する児童が増えたこともあり、早寝早起き朝ごはんができていたと回答した児童はほぼ9割にまで増えた。 ・給食室が毎日作成する献立カレンダーで、給食が作られる動画や食に関する豆知識を | A | ・早寝早起き朝ごはんは望ましい生活習慣を形成するとともに、朝からの活力にもつながると思う。引き続き指導を進めてほしい。 | ・こころ部 | |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。 ○業務改善に関するアンケートで肯定的な回答をした職員80%以上。 ○業務効率に向けた改善を3つ以上実行する。 | ・定時退勤日の設定と周知徹底。 ・業務の標準化とICT活用(データ共有) ・時間外業務内容の精選と、タイムマネジメントに関する職員研修の実施。 ・電話対応時間の制限と健康管理アプリの導入 | B | ・定時退勤日の設定が不十分であった。曜日、時間の徹底が必要であった。 ・月平均の時間外勤務時間の上限を職員平均が越える月が後期は1回あった。 ・業務効率化向上のため、電話対応時間の制限、健康管理アプリの導入を実施。電話対応の負担が大きく減少した。 | B | ・時間外勤務をなくすための方策をお願いしたい。先生たちも心身に健康に過ごしてほしい。 ・すべての最終評価をAにするためには、職員の心身の健康が必要と考える。業務の簡素化について進めてほしい。 | ・教頭 | |
| | ●教職員の資質向上と組織の活性化 | ○「資質向上、組織の活性化」等に関するアンケートで、肯定的な回答をした職員80%以上。 | ・15分間程度の校内ミニ研修会を年10回以上実施する。 ・教頭や教務を中心に、育成部会と学年部会の活性化を図る。 | A | ・「資質向上、組織の活性化」に肯定的な回答をした職員が多いが、時間の確保が課題である。校時の見直しを実施予定。 ・月一度程度のICTのミニ研修会をし、資質向上に取り組んだ。 | A | ・積極的に研修を行うことは非常にいいことだと思う。 | ・教務 ・情報教育推進リーダー | |
| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | | | | | | |
| 評価項目 | 重点取組 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | 主な担当者 | |
| ○地域連携 | ○児童が地域の良さを語り、夢や希望の実現に向けて主体的・意欲的に取り組もうとするための教育活動を行う。 | ○「嘉瀬町が好きですか」等の調査で、肯定的な回答をした児童が80%以上。 ○「目標(夢)を持ち、見通しをもって粘り強く取り組むことができたか」等のアンケートで、肯定的な回答をした児童が80%以上。 | ・地域の方と学習をすることで、地域の良さを知り、嘉瀬町を好きになる児童の育成をめざす。 ・児童の体験的学びの場「出番・役割・承認」を作る。 ・地域行事への積極的な参加の呼びかけ、行事への児童の参画を促す。 | A | ・コロナ禍が明け、地域との行事が通常開催されて地域との関わりが増えたことにより、嘉瀬町が好きだと答えた児童は92%とさらに上昇した。 ・夢を持って取り組んだと回答した児童は91%に上がった。 | A | ・子供たちの嘉瀬町への愛を感じる。地域の行事にも進んで参加している。「どうひろるば」のジュニアボランティアの活動はこれからも続けてほしい。 ・公民館を大いに利用(活用)してほしい。 ・児童が肯定的に捉えているので良いと思う。主体的に活動できたかどうかの評価は難しいと思う。 | ・育ち部 ・教頭 | |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

| | |
|----------------|---|
| 5 総合評価・次年度への展望 | ・嘉瀬小のよさ・強みである地域連携を生かして、児童の育成に努めた。新型コロナウイルス感染症対策が解除され、令和7年度の学校運営協議会設置に向け、地域教育コーディネーターと連携し、開かれた教育課程の拡充を図りたい。また、SDGsの発表の一つの手がかりとして、児童の主体性や地域への愛着を育てたい。 |
|----------------|---|